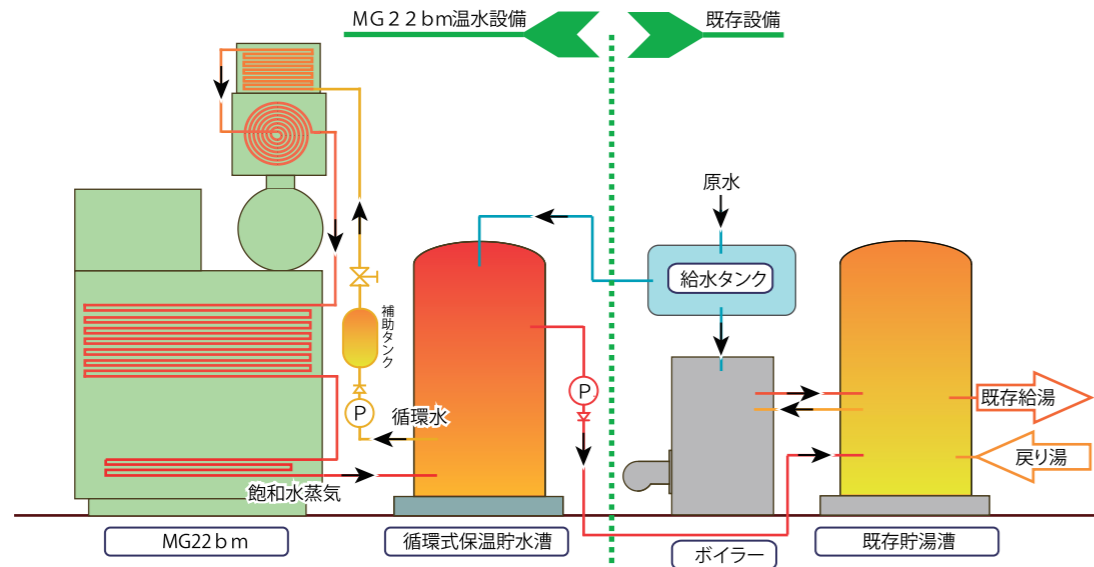


## 配管系統図 (参考)

本図はMG 2 2 bmの配置を想定的に表したもので、導入時には設置状況に合わせた配管が可能です。



※循環保温貯水槽を外し、直接給水タンク又は、既存貯湯槽を温めることも可能です。

## ● 設置場所

ご相談ください。

1. コンクリート打設床 5.0 m<sup>2</sup>・天井までの高さ 5 m・設置搬入間口 3 m×高さ 4 mの施錠できる場所。
2. 関連設備・電気設備 (三相 200 V)、給排水衛生設備工事、給排気設備工事など。

## ● 設置支援

選任技術者により、本装置の関連設備を含めた工事を一括、設計・施工管理が可能です。

1. お客様の設置スペースやボイラー等の既存設備等状況に応じた対応が可能です。
2. 本装置に伴う関連設備工事を一括、設計及び施工管理を行うことも可能です。
3. 本装置の効率的な稼働方法を選任オペレータが設置時一定期間派遣して運用担当者様に指導いたします。
4. 既存設備施工、運用している地元関連業者様との連携にも対応いたします。

## ● 保守サポート

独自の保守サービスネットワークを展開して、維持メンテナンスを行います。

1. 本装置は消耗品を除き一年間無償で保守・点検を実施致します。  
本装置は保守を目的としたメンテナンス契約制度を導入しており、必要に応じた点検を有償にて実施いたします。
2. 通常運用についてのご質問や効率的な稼働について、ご相談をお受けいたします。
3. 消耗部品の交換については実費にておこないます。
4. 本装置関連の環境問題や経営問題に関するコンサルティング対応も別途お受けいたします。

●本カタログ記載内容は改善のため予告なく変更される場合がありますので予めご了承ください。

●本製品に関するご質問は、下記担当窓口までお問い合わせ願います。

### 技術的なお問い合わせ

製造メーカー **株式会社日省エンジニアリング**  
 栃木県矢板市成田1724-3  
 TEL 0287-43-0770 FAX 0287-43-7497  
 E-mail post@nseg.co.jp

### ご購入関係のお問い合わせ

販売代理店 **株式会社ワールドアライアンス**  
 東京都品川区南大井6-5-13 第2レイナービル205  
 TEL 03-5767-6711 FAX 03-5767-6722  
 E-mail mg22bm@w-alliance.com

# 有機物磁気熱分解温水装置

[MG 2 2 bm]

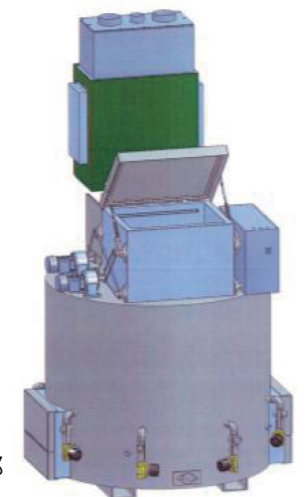
導入効果は給湯経費の節減＝環境を守る・温室効果ガスの削減

廃棄系有機物 (生物資源由来のゴミ) を有効活用・業務用給湯装置



主装置ステンレス外装

MG 2 2 bm 主装置外装モデル  
(付属：循環保温貯水槽)

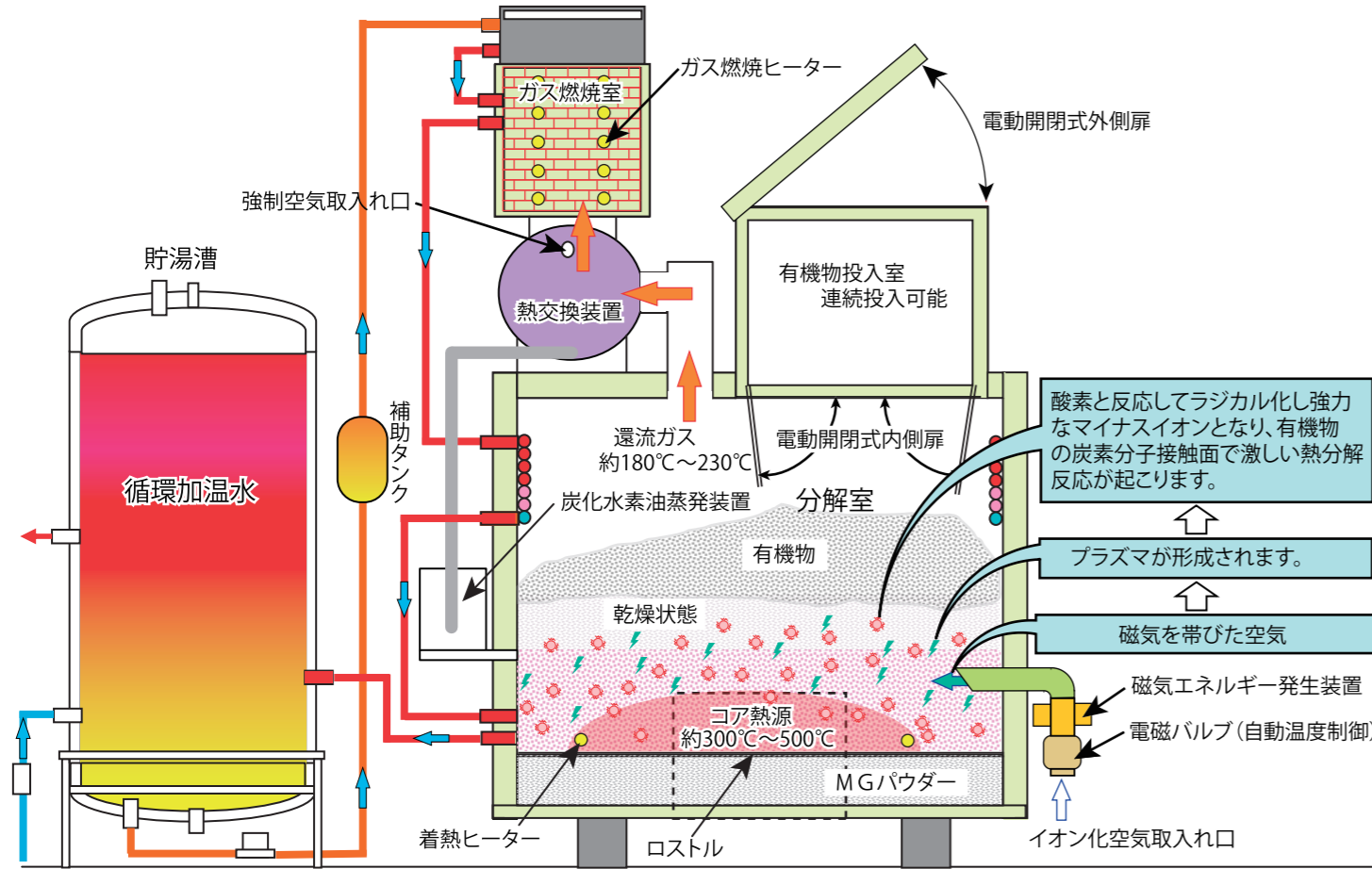


主装置内部

株式会社日省エンジニアリング NISSHO ENGINEERING CO.,LTD

PL保険制度加入PL10260162911番 栃木県矢板市成田1724-3

# 有機物磁気熱分解温水装置 MG 2 2 b m



## 熱原理(水湯)

有機物の分解熱(熱量)が装置内の内部管に流入した水に吸収され、水量2~5L分の水流で飽和水蒸気を作り出す。この飽和水蒸気を貯湯槽に導入して加熱するシステムである。

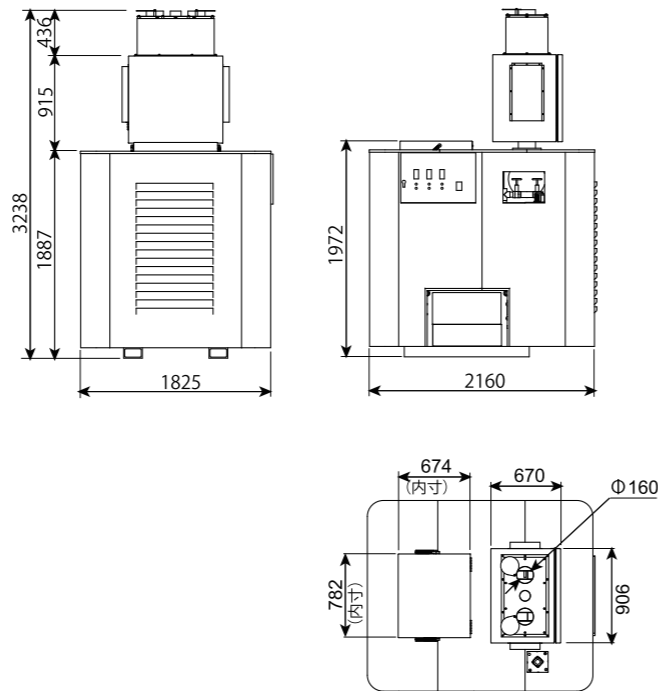
## 製品仕様

### 運転仕様

1. 電気制御による自動運転
2. 最大投入量 2.0m<sup>3</sup> (通常1.6m<sup>3</sup>) 2回目からは連続投入可能

### 仕様・定格

1. 総重量 約2000kg
  2. 大きさ 巾1825mm 高さ3238mm 長さ2160mm
  3. ガス燃焼室  
ヒーター電源 200V単相、10kw/h(運転時10,6kw)(自動制御)  
ガス燃焼室内部容積 300mm(W) x 598mm(L) x 644mm(H)
  4. 熱分解室初期稼働ヒーター電源  
200V単相、1kw x 4 = 4kw (自動制御)
  5. 運転制御 有機物充填後自動制御
  6. マグネットホルダー 8基
  7. 室内設置仕様 装置本体外部温度50℃未満
  8. 投入口電動開閉
  9. 稼働温度自動調整 (設定稼働範囲 常温~1000℃)
  10. 空気の取入(熱分解室=温調自動制御、燃焼室=常時吸入)
  11. 炭化水素油処理 蒸発皿気化方式
  12. 流入水量 毎分2L~5L (流出=飽和水蒸気)
  13. ステンレス外装
  14. 付属品 階段
- オプション: 乾燥機・リフター・貯湯槽



## 製品の特徴

有機物で水を温めて燃料費・廃棄物処理費用を削減し、経費を低減します。

1. 磁気と装置内の熱源のみで有機物を分解・減容し、発生する分解熱と排ガス処理熱を最大限利用して温水を作ります。
2. 24時間365日稼働!定期的に入力するだけで温浴施設などの燃料問題を大巾に軽減します。
3. 二酸化炭素やダイオキシン類の排出を抑え環境基準をクリア。
4. 投入処理する有害物質を含まない有機物は減容され無害な灰となり、廃棄物処理コストを低減します。
5. 嬉しい耐久性。温度変化が少なく低温処理しますので、高い耐久性を誇ります。
6. 処理は装置内の温度により自動制御。更に、投入扉の開閉、残渣落としもスイッチを押すだけ。

## 製品の主な稼働操作

### エネルギー源は有機物全般です。

- 事業系廃棄物 / ダンボール・紙類・乾燥家畜糞・乾燥食品残渣・建築廃材等
- 木材系廃棄物 / 間伐材・被災木材・乾燥剪定材・枯木・おがくず等
- 農業系廃棄物 / もみ殻・稲・麦わら・農業用ポリエチレン類等
- 化学系廃棄物 / ペットボトル・ビニール・廃プラ・化学繊維・紙オムツ等 \*塩ビ系は除く

※上記等の有機物の含水率が30%を超える場合は、乾燥するか、他の乾燥廃棄物と混合して投入してください。  
※有機物の中でも炭素(C)含有率が高いものは熱量は高いため、もみ殻・木質材が有効。

1. 流量と水温を確認してください。  
水を循環させて加温しますので必ず水の循環を確認してください。(カラ炊きに注意してください)
2. 主装置の温度確認をしてください。  
水を循環させた状態で主電源を投入してください。(各設定温度は設置時にセットされています)
3. 有機物を投入室へ投入後、分解室に落し入れ処理をおこないます。  
投入量は容積に対して7割~8割(1.6m<sup>3</sup>)を目安としてください。
4. 有機物の投入は1日2~3回、およそ8時間~12時間毎に投入してください。  
有機物の分解・減容は、その種類により異なります。
5. 日常のメンテナンス  
残渣(灰)の取り出しを2日に1度程度、煙道の清掃を2週間に1度程度実施します。

## 有機物の分解原理

### 有機物磁気熱分解温水装置MG 2 2 b mは有機物の分解熱利用

- ①外気を遮断した分解室内の温度が温まる事により負圧状態となります。
- ②この負圧状態において一定の温度以下で外部から空気が流入します。
- ③この空気は強力な磁気発生装置内の磁場を通過し、分解室内温度300℃前後でプラズマ状態となります。  
※プラズマ: 気体を構成する分子が電離した状態、即ち、正の電荷をもつイオンと負の電荷をもつ電子とに別れて自由に飛び回っている状態
- ④このプラズマに希薄な空気中の酸素が反応しラジカル化し強力な活性なマイナスイオンとなります。  
※ラジカル: 通常原子や分子の外周は2個対の電子で安定した状態を保っている。この電子が不対状態になることを言い、この状態になると他の原子や分子から電子を奪い取り安定しようと活発な反応を示す。
- ⑤このマイナスイオンが分解機内に投入された有機物の炭素(C)分子と反応し、接触面で激しい熱分解反応が起こり燃料がなくても有機物を酸化分解する。
- ⑥同時にこのマイナスイオンの作用により有害な物質とも反応し、残渣物の灰及び排気ガスは無害化し安定した物質に変化する。